

# かわさき区の宝物シート

宝物No.
25-1

## しょうわでんこうかぶしきがいしゃかわさきじぎょうしょほんじむしょ 昭和電工(株)川崎事業所本事務所



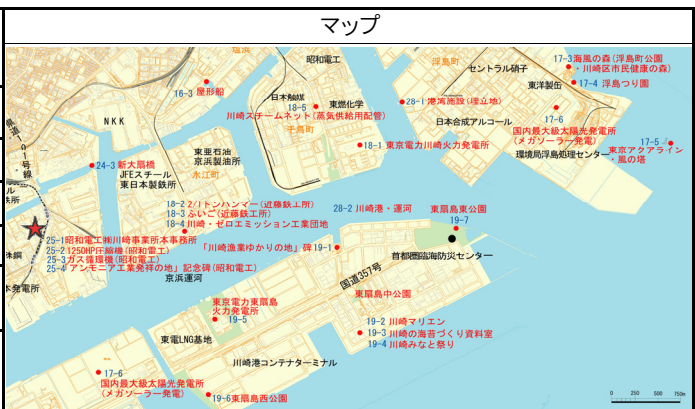
エリア	田島地区	シーズン	通年
	扇町	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



写真提供：昭和電工(株)川崎事業所

所在地	川崎区扇町5-1
問い合わせ	昭和電工(株)川崎事業所
TEL	044-322-6813 (代)
FAX	
E-mail	
URL	<a href="http://www.sdk.co.jp/">http://www.sdk.co.jp/</a>
交通	JR川崎駅よりバス「昭和電工前」下車



### 基礎情報

- 昭和6年(1931)に現在の昭和電工(株)の前身であった昭和肥料(株)の本事務所として建てられた。昭和初期の京浜工業地帯における工場事務所建築の代表格とされている。
- 玄関を入るとすぐに吹抜けの階段があり、付随するステンドグラス、手摺り、腰掛けの装飾など、空襲被害によって戦後に改修されてはいるものの当時の洋風建築の面影を色濃く残している。平成11年(1999)9月に、川崎市で民間初の国登録有形文化財として登録され、現在でも川崎事業所本事務所として使用されている。

### 由来・エピソード

- 川崎区扇町は、東京湾埋立株式会社により昭和3年(1928)に完成した埋立地で、三井埠頭を皮切りに多数の企業が進出した工業港湾として京浜工業地帯の中核を形成した地域である。扇町の北西部に位置する昭和電工(株)川崎事業所本事務所は、昭和6年(1931)、前身の昭和肥料(株)の事務所として建設された。施工は清水組(現・清水建設)が担った(設計者は不詳)。
- 外観は、縦長の窓を並べた鉄筋コンクリート造2階建て・陸屋根で、正面中央に車寄を低平に突き出した簡素な意匠である。内部の急勾配の階段ならびに周囲のステンドグラス等数々の装飾品も含め、建物の建設年代、内部意匠、著名な施工者の関与など昭和初期の京浜工業地帯・川崎臨海部における代表的な工場建築の一つといえる。
- 現在の昭和電工(株)は、昭和14年(1939)6月に昭和肥料(株)と日本電気工業(株)が合併して設立された会社である。昭和肥料は味の素(株)創業者の鈴木三郎助が、農民への安価な化学肥料の供給を目的に昭和3年(1928)に設立。日本電気工業は、前身の日本沃度(株)が昭和9年(1934)1月に日本で始めてアルミニウムの精錬に成功し、同年3月に改称した会社。創業者の森轟祖はかつて鈴木三郎助と沃度の原料である海藻の買い付けをめぐり、しのぎを削った関係であった。経営危機に瀕した森を鈴木が救済したことから互いを認め合い、生涯にわたる良き朋友関係を築いたといわれる。鈴木は森の経営者・技術者としての才能を高く評価し、自身が設立した昭和肥料の経営に森を専務として参加させた。
- 森轟祖の指導の下、昭和肥料は昭和6年(1931)4月、当時不可能とされていた国産技術・機械による日本初のアンモニア合成に成功し、国産の合成硫酸(無機肥料)の製造を開始するに至った。本事務所の完成と同年のことである。そして8年後、昭和肥料と日本電気工業は合併し昭和電工(株)が誕生、森は初代社長に就任した。
- 第二次大戦中7回にわたる空襲により工場施設の74%を失う壊滅的打撃を受け機能が停止したものの、終戦後すぐに工場復旧が決定され、年内には生産再開を果たした。

### 補足・その他

- 現在でも使われている現役の建物で工場敷地内でもあり、一般公開はしていない。
- 終戦後の国策となった食料増産のためには肥料の増産が重要であると、終戦の翌年、昭和天皇が全国行幸の第一歩としてご来場した。製造現場責任者が目があって声をかけられたといい「人間宣言をされた昭和天皇が初めて声をかけた民間人」と一躍有名になった。
- ニヶ領用水の円筒分水、川崎河港水門に次ぐ川崎市内では3件目となる国の登録有形文化財で、民間の所有施設としては市内第1号。登録文化財とは「保存」ではなく使用や改装ができる文化財のこと。年に1回の文化財保護デーに合わせた消防訓練や、補強工事なども逐次実施されている。

### 関連シート

- (5-7)味の素(株)資料展示室
- (25-2)1250HP圧縮機(昭和電工)
- (25-3)ガス循環機(昭和電工)
- (25-4)「アンモニア工業発祥の地」記念碑(昭和電工)